

老化に伴う脳の萎縮

Dr.



「認知症ケア」シリーズ①



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。54歳。

私は54歳。高校生のときに比べて明らかに記憶力が低下しています。子供とトランプゲーム「神経衰弱」をしたら絶対に勝てません。
最近、人の名前を覚えられなくなりました。2日前の食事内容を思い出すのにかなり時間がかかります。漢字が出てこないことがあります。「ひょっとして認知症が始まった?」。そんな言葉が頭をよぎることがあります。

本当に病気なの?

「認知機能障害」といふべきです。それを省略して「認知症」と短縮形で使われます。毎日、何度も使う言葉ですが、どこか引っかけられています。そもそも「認知症」は本当に病気なのでしょうか? まずはこんなテーマから始めてみましょう。
脳の機能は年齢とともに低下します。CTで診ると脳は徐々に萎縮します。腰が曲がり、膝が変形し、皮膚のシミは増えるので、脳の萎縮は当然、といえます。全身が縮むのに、脳だけ縮まない方が、不自然だと思いませんか?
脳の中でも、最近の記憶や難しい思考回路にかかわる部分が機能低下を起こすと日常生活に支障が生じ、時に、他人の助けを要します。しかし、認知症の人はすべての機能を失ったわけではありません。会話は十分に成立するし、食事がおいしいか、まずいかなどははっきり分かります。

認知症になれば脳のすべてが縮むわけではなく、一部の機能が低下するだけなのです。歩く速度が遅くなるのと、それだけの違いがあるのでしょうか。
先日、新幹線で101歳の日野原重明先生と出会いました。先生は100歳を超えた今も、現役の医者です。背中少し曲がっていますが、脳は縮んでいないようです。全身は縮むのに脳だけ萎縮していない日野原先生を、どう考えたいのでしょうか?
脳だけ縮まない日野原先生の方が「異常」かもしれせん。もしそれを病気と呼ぶなら、私は「日野原病」と命名します。「認知症」が正常で、「日野原病」が異常ではないのか? そのように考えた方が合理的だと思えます。
認知症の人が300万人を超えたと報道されています。日本社会が高齢化しているのに「平穏死」という親孝行という本が世に出ました。これで平穏死3部作となります。よろしければ、一読ください。

「認知症」は本当に病気なのだろうか? まずはこんなテーマから始めてみましょう。
脳の機能は年齢とともに低下します。CTで診ると脳は徐々に萎縮します。腰が曲がり、膝が変形し、皮膚のシミは増えるので、脳の萎縮は当然、といえます。全身が縮むのに、脳だけ縮まない方が、不自然だと思いませんか?
脳の中でも、最近の記憶や難しい思考回路にかかわる部分が機能低下を起こすと日常生活に支障が生じ、時に、他人の助けを要します。しかし、認知症の人はすべての機能を失ったわけではありません。会話は十分に成立するし、食事がおいしいか、まずいかなどははっきり分かります。

「認知症」は本当に病気なのだろうか? まずはこんなテーマから始めてみましょう。
脳の機能は年齢とともに低下します。CTで診ると脳は徐々に萎縮します。腰が曲がり、膝が変形し、皮膚のシミは増えるので、脳の萎縮は当然、といえます。全身が縮むのに、脳だけ縮まない方が、不自然だと思いませんか?
脳の中でも、最近の記憶や難しい思考回路にかかわる部分が機能低下を起こすと日常生活に支障が生じ、時に、他人の助けを要します。しかし、認知症の人はすべての機能を失ったわけではありません。会話は十分に成立するし、食事がおいしいか、まずいかなどははっきり分かります。

若年性認知症 18〜64歳で発症する認知症の総称。65歳を過ぎれば若年性と呼ばない。厚生労働省の調査では2万7千〜3万5千人いると推定されている。動き盛りの若年者の認知症は、社会や家族に大きな影響を与え、注目されている。